



市民の声を
市政に届ける

6月議会報告

〔三橋新市長に
代表質問しました〕

市長公約について

◆質問 保育所民営化は

◇回答市長 公立幼稚園及び

公立保育所の再編等に関する

基本方針に沿って対応したい。

◆質問 前市長と同じでない

とは

◇回答市長 保育需要が多様

化する中、民間での受け入れ

が難しい面もある。一定公立

施設を残し行政としての責任

を果たしたい。

◆質問 近鉄五位堂駅北公有

地の市場調査は

◇回答市長 保育施設の誘致

も可能と示されたが、児童の

送迎車両等により交通量が増

えることなど検討が必要。都

市計画見直しの対象地であり、

最適な手法を見いだしたい。

◆質問 安易な学校統廃合の

見直しとは

◇回答市長 子ども人口の維

持ないし増加に向けた政策が

重要、現在の方針は一定見直

す。

◆質問 基本方針は、保護者、

関係者との協議なく作成され

た。やり直すべき。

◇回答市長 所管は教育委員

会である。人口増に向けた政

策を実施しないまま、人口予

測に基づく点に安易さを感じ

る。

◆質問 規制緩和を行い人口

増加を目指すということか。

送迎車両等により交通量が増

えることなど検討が必要。都

市計画見直しの対象地であり、

最適な手法を見いだしたい。

◆質問 安易な学校統廃合の

見直しとは

◇回答市長 子ども人口の維

持ないし増加に向けた政策が

重要、現在の方針は一定見直

す。

◆質問 基本方針は、保護者、

関係者との協議なく作成され

た。やり直すべき。

◇回答市長 所管は教育委員

会である。人口増に向けた政

策を実施しないまま、人口予

測に基づく点に安易さを感じ

る。

◆質問 規制緩和を行い人口

増加を目指すということか。

能登震災支援



共同支援センタ

ーに集まった色々な支援物資

も自由に持ち帰ってもらい、

何一つ残らず全て配り終えま

した。アツという間の2時間

でした。現地の人から『奈良

も揺れましたか?』と聞かれ、

『揺れました!怖くて中腰で

立ってました』と言うと『こ

っちは立っていられないほど

の揺れでしたよ』と話された

事が心に重く残りました。今

回、参加させて頂き貴重な経

験が出来ました。ありがとうございました。(中井好子記

ごさいました。(中井好子記

追加)

4月24日~25日「災害

時の議員活動について」全国

市町村国際文化研究所で全国

の議員さんに交って研修して

きました。全国では、被災地

中心に災害時の議員活動につ

いて考えられています。行政

だけでなく議会としても災害

時についてできる限りの考えね

「皆さんからの声」



Q 12月から健康保険証は

どうなりますか。

A マイナンバーカード自体

は、任意となっていますがマ

イナンバーと健康保険証は紐

づいています。それを希望し

ない人には、健康保険証代わ

りの資格証が発行されます。



Q 定額減税の確認書が来ま

したが意味がよくわかりませ

ん。

A 年金者の方は所得税3万

円の内、6月支給で2万円減

税、次の8月で残り分1万円



見えにくいけれど
中井夫妻です

を減税されます。住民税1万円については、10月に控除、しきれないときは12月分で残金が控除されます。



「他市では裏面コピーを求めています」

来るようになっていきます。真鍋議員は、当日最終に「動議」という形で提案し、賛同者を議長がはかる流れの中で4名が賛同、起立し意思表示したにもかかわらず。(ネット中継で明らかです。)議長は「賛同者なし」と議題に挙げませんでした。内容は、議長の不信任、辞職勧告でした。議長は、議題にされたくないと判断をした模様です。

しかし、この事自体が議会議ルを無視。

議長としてあるまじき恣意的運営・行為となりました。

今後日本共産党議員団は、議長に対して議会議員を代表し各議員を公平・公正に扱い

議会を運営するように求めていきます。

動議提案

『議長不信任辞職勧告』

議長が一蹴

7月10日、6月議会最終日の真鍋議員の動議提案を議長が明らかでない和不採択。市議会では、2名以上の賛同があれば議事に議題を提案出



議会制民主主義で
市民の意見を反映させよう

『Q & A 共産主義と自由 — 資本論』を導きに』抜粋

志位議長の会見から

メディアの問題を

どう考えるか？

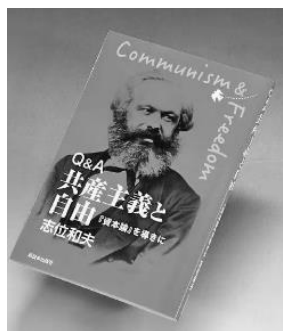
——テレビとかラジオの統制をしているのは社会主義とか共産主義というイメージがあったんですけれども、いま資本主義の国では富裕層・大富豪がテレビ局を買収している。このメディアの問題をどういうふうにお考えなのですか。

志位 メディアについては、

この本のなかでも触れている部分があります(124ページ)。「自由と民主主義の諸制度」を将来にわたって継承し、発展させるといのが日本共産党の確固たる立場ですが、たとえば日本の現実を見た場合に、憲法では言論・出版・報道の自由が保障されています。それでは巨大メディアの現状はどうなっているで

しょうか。巨大メディアは「権力の監視役」という本来の役割を果たしているでしょうか。多くの場合にはそうは言えないという現状があることは否定できないでしょう。その根本には巨大メディアの多くが財界・大企業との強い結びつきのもとに置かれている、あるいはアメリカの影響下に置かれている、という問題があることを指摘しなければなりません。こういう「外的な制約」をとりのぞくことは、資本主義のもとでの民主的改

革においても急務となつていますが、社会主義に進むならば、メディアはそうした「外的な制約」から自由になり、言論・出版・報道の自由という点でも、はるかに豊かなものになるというのが、私たちの展望です。



人間の自由な時間を求めて

入党のよびかけ



「自民党ぐるみの裏金事件に怒りがおさまらない」「物価高騰のもと暮らしがよくなる希望がみえない」「軍事費がどんどん増えるのがとても不安」「日本のシエンダーギャップはひどすぎる」——。

いま、政治への怒りや不安の声が渦巻いています。それなのに、自公政権からは、この日本をどうしていくのか、希望も展望もまったく示されません。内政でも外交でも、すっかり行き詰まってしまった自民党政治。もう終わりにしなければなりません。

腐敗政治をなくしたい。暮らしでも平和でも希望がみえる新しい政治に変えたい。一人ひとりが大切にされ尊厳が守られる社会をつくりたい。そのために、いま私たちは、日本共産党をつよく大きくすることに全力をあげています。